

東大校友会ニュース

March 2019

U T o k y o
A l u m n i
A s s o c i a t i o n
N e w s

no. 36

contents

- 2 | より良い未来社会づくりに
貢献する
- 6 | 東大生の健康アンケート調査
- 8 | 東京大学校友会
母校と在学生を力強く支援します
- 10 | 2019年東京大学ホームカミング日は
10月19日
- 12 | 同窓会活動・設立レポート
- 14 | 東京大学の今 News Archive 2018
- 18 | 東京大学基金よりお知らせ

みんなの未来をみんなで創る 「より良い、未来社会」づくり

あらゆる人が進歩の成果を享受する平等な社会を「Society5.0」と呼びます。これは狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く5番目の社会で、IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出します。「Society5.0」が示す未来を実現するための本学の新たな取り組みをご紹介します。

SDGsの達成と経済成長の両立にむけて 大学が知識集約型への社会変革の起点となる

2015年に国際連合が採択した「SDGs」は、健康長寿、地球環境への負荷の低減、貧困や飢餓の解消、平和と公正の実現など、2030年に向けて全世界が直面する課題を包含したテーマの集合です。持続可能な開発目標「SDGs」は、2030年までに達成すべき17目標と169のターゲット(具体目標)でできています。これは次世代に向けた国際社会共通のものであります。

SDGsで謳われている「誰一人取り残さない」、すなわち多様性を尊重した皆が活躍できる社会像の方向性は、地球と人類社会の未来に貢献する「知の協創の世界拠点」の形成を目指す本学の指名と合致しています。そこで東京大学は2017年、「未来社会共創推進本部」(FSI: Future Society Initiative)を設立し、学内外の連携を深める取り組みを開始しました。2019年1月末現在、プロジェクトの登録数は180以上です。今回はその中から東大の研究の幅の広さを示すプロジェクトを4つ選びました。詳しい登録プロジェクトは「UTokyo FSI」で検索してください。

未来社会協創 (FSI) 基金

未来社会協創推進本部が主導する未来社会協創事業 (FSI 事業) の取り組みを支え、その目標を実現するための基金として「未来社会協創 (FSI) 基金」を設立しました。詳しくはP18をご覧ください。

contents

食事が変わると世界も変わる

：都市化の進むアフリカの栄養パターンの変化

海流を電流に変える

：海底をタービンの森に

アスレチックな脳

：けがに適應する脳と体

重要なのは、あなたが誰であるかということ

：ライフスタイル認証で生活をもっと便利に、安全に

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



1 NO POVERTY
貧困をなくそう



2 ZERO HUNGER
飢餓をゼロに



3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING
すべての人に健康と福祉を



4 QUALITY EDUCATION
質の高い教育をみんなに



5 GENDER EQUALITY
ジェンダー平等を実現しよう



6 CLEAN WATER AND SANITATION
安全な水とトイレを世界中に



7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY
エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
働きがいも経済成長も



9 INDUSTRY INNOVATION AND INFRASTRUCTURE
産業と技術革新の基盤をつくろう



10 REDUCED INEQUALITIES
人や国の不平等をなくそう



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
住み続けられるまちづくりを



12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
つくる責任つかう責任



13 CLIMATE ACTION
気候変動に具体的な対策を



14 LIFE BELOW WATER
海の豊かさを守ろう



15 LIFE ON LAND
陸の豊かさを守ろう



16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS
平和と公正をすべての人に



17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS
パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030に向けて世界の発展した持続可能な社会を築こう

くりに貢献する」

Project 1

食事が変わると世界も変わる

アレクサンドロス・ガスパラスト サステイナビリティ学連携研究機構准教授



飢餓を
ゼロに



貧困を
なくそう



エネルギーを
みんなにそして
クリーンに

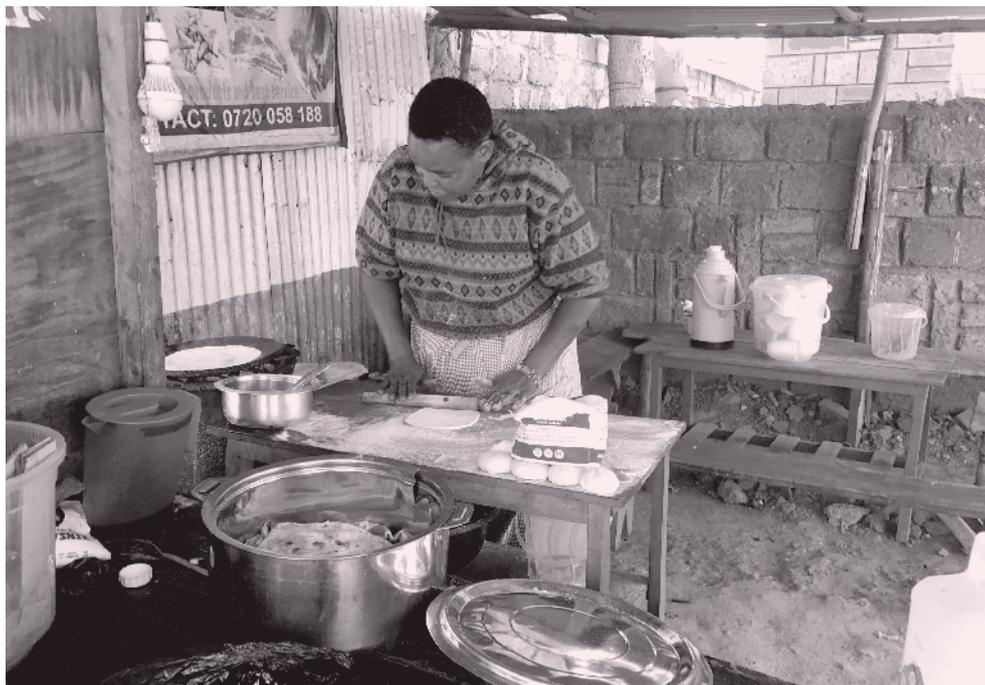
目 本の寿司、アメリカのハンバーガー、ギリシャのムサカ。国にはそれぞれ伝統的な国民食があります。しかし、社会が変化するにつれ、毎日の食事も変わっていきます。個人の食事の選択が、人々の健康や食料安全保障、自然の生態系、そして世界の気候に影響を与えるのです。

サステイナビリティ学連携研究機構 (IR3S) のアレクサンドロス・ガスパラスト准教授とその学生らは、サブサハラ・アフリカにおける都市部での食事の

変化の原因と影響について研究しています。同プロジェクトは2017年春に始まり、成長しつつあるアフリカの4都市が組み込まれています。研究対象国から留学している東京大学の大学院生3名が、ガーナのアクラとケニアのナイロビを訪問し、合計およそ1,500の家庭でインタビューを行っています。マラウィとモザンビークで共同研究をしている研究パートナーは2019年も調査を継続します。

10年以上前と比べて、現在はどんなものを、なぜ食べているのかと現地住民に

尋ねることで、食の変遷をもたらしたものの、そして現在および将来の都市部での食事が広範囲に及ぼす影響について予測することを研究者らは目指しています。このようなアフリカの大都市で、なぜ、そしてどのように食事が変化しているのかをより理解することにより、一定の食事を選択するよう動機づけることや、成長しつつある都市の住民を支援し、持続可能性を強化することの是非およびその方法について、国が判断できるようになります。



© 2018 Alice Karanja.

都市化の進むアフリカで、人々の食事の変化の原因と影響を調べる研究が行われている。
写真(左): ナイロビでの調理風景。(右上) ナイロビで、子どもたちにインタビューする共同研究者。(右下) ナイロビの住宅。

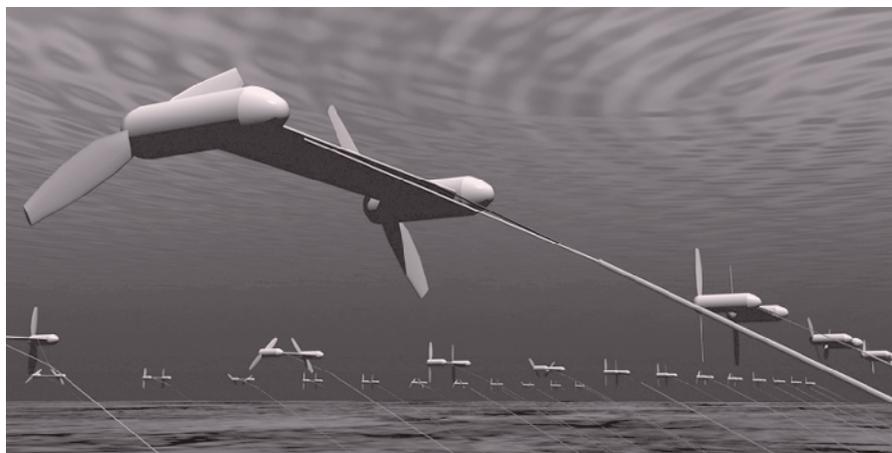
Project 2

海流を、電流に

高木健 新領域創成科学研究科教授

暗 く深い海に、幅数十メートルもの巨大な物体が浮遊しています。これはクジラやサメではなく、新領域創成科学研究科の高木健教授の夢であり、教授率いるチームが実現を目指している巨大な海中タービン発電機です。海底に繋がれた発電機は海流の力だけで、数メガワットのクリーンな電気を発電します。高木教授は造船が専門ですが、海を利用して、独自の方法でクリーンなエネルギーを創り出すことを目指しています。研究者たちは、気候変動や2011年の福島原発事故により、化石燃料と原子力に代わるエネルギーを創り出そうと強く思ったのです。

日本の沿岸には、世界でも数少ない安定した海流が流れています。海中にざらりと並んだタービンが電力グリッドに接続され、発電がおこなわれるのもそう遠い先ではないかもしれません。2017年、高木教授の夢はNEDOとIHIによって2枚の11メートルのタービンにより100キロワットの電気を発電する発電機のプロトタイプとし



て実現されました。2019年には、NEDOとIHIは改良版発電機で九州のすぐ南側にある口之島の住民に電気を供給する試験を行います。次の試験でこのアイデアの商業的実現可能性を証明し、海底をタービンの森へと変えるための種蒔きを始めることを目指しています。



気候変動に具体的な対策を



エネルギーをみんなにそしてクリーンに



海の豊かさを守ろう

「タービンの森」の特徴

タービンのブレードの長さ：40メートル

水深：500メートル

タービンごとの出力量：2メガワット

タービンの総数：500（合計1ギガワット）

一般的な原子力発電所一つ分の発電量をまかなえる

Project 3

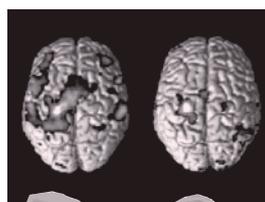
パラリンピアン
の脳は驚くべき適応

中澤公孝 総合文化研究科教授

ア スリート、特にパラリンピックアスリートの、競技での成績よりは、脳に一番の関心を持っています。脳卒中や脊髄損傷後の神経系リハビリの専門家である中澤教授は、かつてはダンサーや野球のピッチャーの研究をしており、2016年まではパラアスリートを調べることはありませんでした。

8個のメダルを持つアメリカのパラリンピック水泳メダリストの脳画像の研究結果が驚くべきものであったことから、中澤教授はそれ以降、日本とドイツの陸上選手やアメリカのアーチェリー選手、そして日本のベンチプレス・ウェイトリフターを含むその他5名のパラリンピックアスリートを調査しました。

中澤教授は、神経損傷・切断に対し脳と身体がどのように適応するのかを観察しよ



脊髄を損傷したアスリートの脳（左）はより活発に活動し、損傷のない人の脳（右）より上腕筋を上手くコントロールできることが明らかになった。

© 2018 中澤公孝



うとしています。身体の一部機能が喪失しても、その残りの部分をより良くコントロールできるように脳が再編されることが、これまでの研究結果により判明しました。中澤教授は、2020年東京パラリンピックも含め、パラアスリートの研究の継続をし



たいと考えています。パラアスリートの身体を補完する方法の基礎をなす神経メカニズムを理解することが、脳卒中や脳損傷を経験した患者のより効果的なリハビリや、あらゆる人にとっての身体トレーニングの向上につながる可能性があります。



すべての人に健康と福祉を



質の高い教育をみんなに



すべての人に健康と福祉を



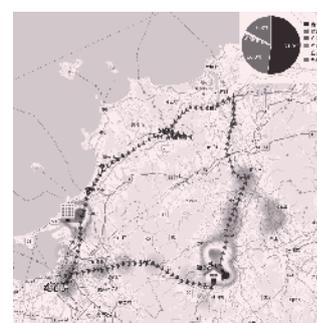
働きがいも経済成長も



産業と技術革新の基盤をつくろう



住み続けられるまちづくりを



ある個人の典型的な行動経路とよく立ち寄る場所を表した地図。ライフスタイル認証では、このようなデータを集積しデジタル指紋を作ることによって、より安全なデジタルライフを提供します。

Project 4

重要なのは、 あなたが誰であるかということ

山口利恵 情報理工学系研究科特任准教授

パ スワードを忘れてしまったり、家に財布を置いてきてしまったり、さらには成りすましの被害にあったりしたことはありませんか？ こうした問題はすべて、情報理工学系研究科の山口利恵特任准教授がライフスタイル認証と名付ける技術で解決できるかもしれません。

ライフスタイル認証とは、あなたが誰であるのかを証明する方法で、お金を払ったり、アプリやデバイスにログインしたり、スマートフォンのタップ1つでパーソナライズされた新しいサービスを利用したりできるものです。ライフスタイル認証はまた、オンラインや実際の生活上で、犯罪者が成りすましをするのを防ぐ、最も効果的な方

法にもなるかもしれません。指紋やパスワード、面倒な多段階認証といった、安全ではない手法を改善するためのアイデアです。

日々の生活の中で、スマートフォンや接続デバイスがあなたとあなたの活動を記録します。そのデータは膨大で、あなただけのものであるため、偽造が極めて難しいものです。

これはどのように機能するのでしょうか。サービス・プロバイダーがあなたの身分証明を求める際、プロバイダーはあなたのデバイス記録を、あなたの事前の同意のもとに安全な過去の情報から成る長期間の記録と比較します。あなたがあなたであると主張している個人であることを検証するため、

洗練された分析技術により、あなたの短期データが、長期データで明確となっている行動パターンに合っているかが判断されます。

集める情報が多ければ多いほど、記録はより正確となり、このシステムをますます安全なものにしてくれます。サービスを提供する側も、例えばあなたが知らないお店に初めて行った時でもパーソナライズされたサービスを提供できるなど、あなたのニーズをより正確に予測するためにデータを利用できます。

コーヒーにこだわりがある人にとっては最高ですね！

16万件のビッグデータを活用

東大生の健康アン



左から吉岡伸輔准教授、八田秀雄教授、笹井浩行助教

2018年9月に発行した「東大校友会ニュースNo.35」に“生活習慣と健康に関するアンケート※”を同封いたしました。また10月20日に開催したホームカミングデイでもアンケートを配布し、皆さんから多くの回答をいただきました。東京大学の学術研究にご協力いただき、ありがとうございます。本アンケートの実施者で、体力テストの実施と分析を担う教養学部・身体運動部会の3先生に研究の概要と、アンケート回答のその後について伺いました。

※1961年～2015年に東大教養学部に入学者を対象

—1961年から55年以上も続く調査なんですね。

笹井：一年次の4月と12月に体育の必修授業で4種目を測定しています。脚力を見る垂直跳び、敏捷性を見る反復横跳び、筋持久力を見る腕立て伏せ、全身持久力を見る踏み台昇降です。1961年に種目を4つに絞り、以来同じやり方で続けています。

笹井：大学体育が国の制度上必修でなくなったのが1991年です。(大学設置基準の大

綱化) 体育を必修とするか否かは各大学に委ねられた形です。東大では以前は1、2年生で必修でした。1993年から2年生は選択になりました。今でも1年生は体育実技が必修です。

八田：私の時代もほぼ同じやり方でした。
吉岡：以前は種目選びの指標にもしていました。春の体力テストの結果が悪いと学生の間では「地獄のフィットネス」「トレーニング送り」と言われて…(笑)。体力テストと授業で体力向上を、という狙いは画期的でした。現在は体力テストの合計点が81点未満の場合、体力アップのため、種目選択時に優先的にフィットネスを選択できる仕組みになっています。

笹井：4月と12月の測定で、数値が上がる

もの上がらないものがあります。腕立て伏せと踏み台昇降は上がり、反復横跳びと垂直跳びはあまり変わらないという傾向があります。また、4月の記録を見て、超えようと頑張る学生もいますね。

八田：種目の結果に一喜一憂するのは今も昔も同じです。結果が悪くても、トレーニングにちゃんと出席した学生は、当然ながら春よりも秋の方が効果は上がります。

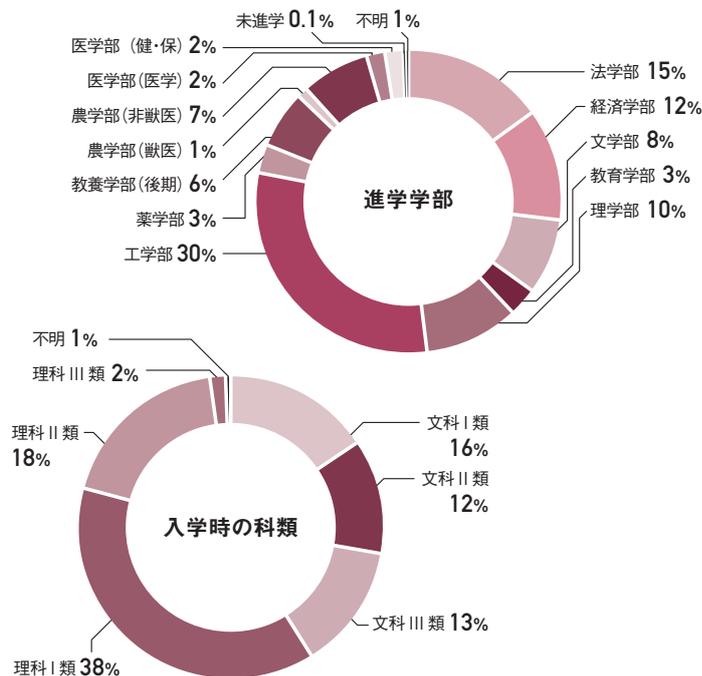
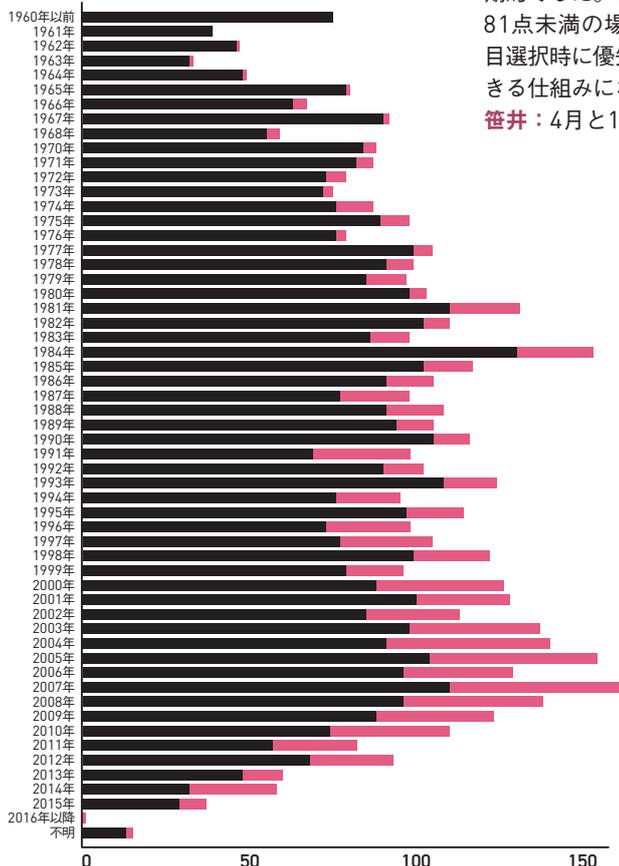
時代背景と体力低下の関係は？

八田：身長は1980年代半ばころにピークを迎え、その後はほぼ横ばい、体重は同じ時期から徐々に減っています。

笹井：大きく見ると、90年付近がピークです。同じ頃に社会全体、違う世代で数値がよかったというのは興味深いことです。また、ゆとり教育など教育制度の変遷と体

卒業生アンケートデータはこれだ!

最初の入学年 ■男性 ■女性



ケート調査

データ集計

男性 4472件 女性 951件 不明 15件



反復横跳び／敏捷性を測るテストです。120cm間隔で引いた3本の線を、サイドステップで20秒間にできるだけ多くまたぎます。



腕立て伏せ／上半身の筋力・筋持久力を測るテストです。肩幅に広げた両掌とつま先を床につけ、3秒に1回のテンポで上げ下げし、崩れるまでの回数を記録します。



垂直跳び／脚筋力・筋パワーを測るテストです。壁に設置した計測板を使い、跳んだ時の最高到達点と直立姿勢で腕を挙げた高さ(指高)の差を記録します。



踏み台昇降／全身持久力を測るテストです。40cmの台を一定テンポで3分間昇り降りします。運動1、2、3分後の脈拍を各30秒間測り、和を記録します。

力の関係も今後見てみたいです。

吉岡：社会全体の環境変化を反映し、世代に関係なくほぼ同時に1980年代後半から体力低下が起きたと考えられますね。

アンケート検証から見えるもの

笹井：今回アンケートの回収率が高かったのは、近年日常的に運動をする人、時間に余裕ができてジムに通う人が増えたこと、健康に関心を寄せる人が多くなったことも一因かもしれません。

吉岡：加えて、入学時に受けた体力テストの当時の自分の偏差値がわかる、というのも魅力だったかもしれません。

笹井：今後の検証次第ですが、もともと体力があった人が現在も社会で活躍していたり、病気になりにくいといったポジティブな面が出れば体育への認識も変わるかと思

います。教養課程で体育授業をする重要性は多くの人に興味をもっていただけるはず

です。
笹井：SES (socio-economic status 社会経済的地位) という言葉があります。所得、学歴、職業的地位を表し、健康や病気と関わることが知られています。90年前後に学生だった人は家庭の可処分所得が高く、運動・スポーツに親しむ機会が多く、それが体力にも影響しているかもしれません。今回のアンケート集計からも、その様子が見てとれればいいと思っています。

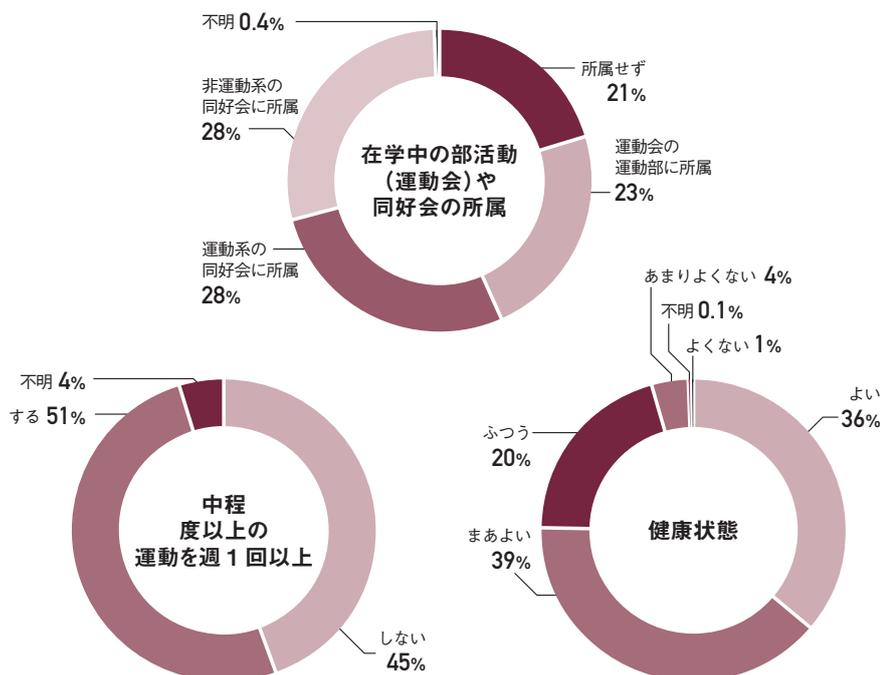
八田：アタマの健康にも運動がよい、うつ病やつきあいができないなどの状態にも運動をしている方がよいというデータがあります。健康に興味がある人はいかに健康的に年をとるか、アタマの健康と運動量の関係性について何か示せば興味深い知見と

なります。

笹井：今回のアンケートで、活動量計による調査※もお願いしました。アンケート回収の4割程度が希望されたのは、想定外の嬉しい驚きでした。皆さんにお伝えしたいのは、年齢に関係なく好きな運動・スポーツを続けていただきたいということです。お子さんがいらっしゃる方は、小さい時から運動に親しんでもらいたいです。



※協力は活動量計を腰に1週間つけ、データを提供。後日、強度別の活動時間、座位時間、歩数などの運動量解析報告書が送られた。



体力偏差値表のメールが届かない方へ

本調査は11月末をもって終了しています。アンケートに回答され、体力偏差値を希望されたにもかかわらず、現時点(3月中旬)でメールがお手元に届いていない方は、「お名前の記入がない」、「個人が特定できない」、「メールアドレスが正しくない」、などが考えられます。

下記の内容を添えてE-mail: fitness.survey@idaten.c.u-tokyo.ac.jp までご連絡ください。

東京大学教養学部スポーツ・身体運動部会
担当：笹井浩行

- 在学時のお名前
- 生年月日
- 性別
- 教養学部への入学年

東京大学校友会 母校・在学生在を力強く支援しています

01

多様な社会体験を提供

体験活動プログラム

東京大学の学部学生がこれまでの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。国内外の卒業生たちが、「社会貢献」「フィールドワーク体験」「就労体験」「自然・地域体験」「国際交流」などを柱に、多様なプログラムを提供。多くの卒業生の協力が不可欠です。



02

キャリア支援

卒業生による面接演習

採用面接経験があり、業種が違う本学のベテラン卒業生（※東京大学校友会サポーター等。詳細は以下）が、志望企業の第二次・三次面接（部課長、役員面接）を想定した本番さながらの面接を行っています。就活直前の学生にむけて良かった点、改善点などのフィードバックをし、就活生の自信につなげます。



05

ようこそ東京大学へ

入学生歓迎パーティー

新たな環境に不安を覚えている新入生たちを招待し、教養学部の先生方や在學生、若手卒業生が直接彼らの質問や疑問に応えます。



06

聞きたいのは勉強法だけじゃない

高校生のためのオープンキャンパス

将来の東大生やその保護者、引率者のための企画を実施しています。在學生による相談コーナー、気がかりなキャンパス環境や住環境についての相談ほか、広報刊行物等の資料を設置し、多岐にわたる情報提供をしています。



募集中

東大校友会サポーター「第3期・春募集」

2019年度は試みとして、悩める学生が

「若手のセンパイとキャリアや進路を気軽に話せる」企画を考えています。

学生の不安を解消すべく対応できる方、

学生の声に耳を傾けることができる方を広く求めます。

また「ホームカミングデイの企画運営」「就活生の模擬面接」等に協力いただける方も引き続き募集しています。

皆さんのスキルやキャリアを活用してください！

※応募者には東京大学校友会スタッフが面談させていただきます。

お申し込み 東大アラムナイスایتをご覧ください。

私たちは「学生が体験的に学ぶ機会を広く提供する」「学生や卒業生が社会に貢献することを応援する」「学生生活をサポートする」「卒業生と大学、卒業生同士をつなぐ」ことを理念として活動しています。来年度は、海外同窓会や各種同窓会とのさらなるネットワーク強化と連携、在学生へのメンタープログラムの拡充、人生を豊かにするリカレント教育など、多様なニーズにお応えしながら、東京大学と皆さんがつながる仕組み作りを目指します。

03

留学中の先輩留学経験者が学生のメンターに

海外大学院留学説明会

世界中から優秀な学生が集まる海外大学院を選択した卒業生が、志願から渡航・修学のプロセスに始まり現地での生活、文化事情や金銭事情までを語ります。回を重ねるにつれ、参加学生自身が学生のメンターとして貢献側に回るなど、さらなる活動の広がりが期待されます。



04

学生たちの健康をサポート

朝食半額キャンペーン

朝食を摂らないで授業に出る学生が少なくありません。健康的な学生生活のために、キャンペーン期間中、東大校友会は朝食メニューの合計額のうち半額を負担しています。学生にとっては生活リズム・食事を考えるきっかけになり、大変好評です。



少子化と広がる未婚世代

新しい出会いの場を提供

未婚の卒業生の方を対象とした婚活セミナーやパーティーを開催しています。内容は講義型、グループワークを取り入れたもの、など多彩です。

人脈を築く再会・交流の場を提供

ホームカミングデー

年に1度、卒業生たちがキャンパスに集う祭典です。講演会、音楽イベント、多数の模擬店でキャンパスがにぎわいます。2019年は10月19日(土)に開催します。

東京大学校友会支援基金

「東京大学校友会の財源拡充にご協力ください」

2017年4月より、ご支援ご協力をお願いしております。おかげさまで本基金は、累計寄附額が3000万円を超えました。誠にありがとうございます。本寄附につきましては、学生支援関連に重点的に使いながら、卒業生サービスの向上に役立っています。

東京大学校友会支援基金寄附者芳名 (お申し込み順)

★下川 亮子殿、石渡 晋太郎殿、高見澤 磨殿、坂次 哲也殿、高橋 拓光殿、★唐澤 郁夫殿、★小林 敏男殿、皆見 春生殿、小田原 悠也殿、森 秀夫殿、★諸橋 功昇殿、★津島 英哉殿、匿名、大野 慎太郎殿、大窪 匡殿、飛田 圭吾殿、★田中 康之殿、★小堀 馨子殿、★大谷 啓殿、★小山 高史殿、★洲上 善弘殿、★武井 嘉実殿、★石原 和郎殿、★匿名、★八十川 紀夫殿、寺島 敦殿、★2018年HCD20周年学年会参加者一同殿、★東郷 剛一殿、★林 茂殿、匿名、★匿名、★匿名、★稲場 肇殿、★東大 84 / 88 会殿、★香田 忠維殿、水谷 浩二殿、★鳥海 幸司殿、★土肥 利満殿、阿久津 大成殿

ご芳名の内容 (2018年8月21日～2019年2月15日) までのお申し込み実績)
東京大学校友会支援基金にご支援いただいた方のうち、芳名録記載を希望された方。
「氏名の掲載を希望しない」にチェックされた方のみ匿名として掲載。

校友会支援会員

★校友会支援基金5万円以上のご寄付

お詫びと訂正 東大校友会ニュースNo.35に掲載の芳名録に以下の方の尊称が抜けておりました。お詫びと共に訂正させていただきます。

誤 原光胤 → 正 原光胤殿

誤 和仁亮裕 → 正 和仁亮裕殿

誤 生島哲 → 正 生島哲殿



100万円以上ご寄附をいただいた方にはペーパーウエイト(クリスタル製)を贈呈します。



5万円以上ご寄附をいただいた方には校友会支援会員としてバッジを進呈。

東京大学校友会支援基金の詳細





2019年10月19日(土)

第18回

ホームカミングデーの ご案内

東京大学

東京大学ホームカミングデーは2002年に

記念すべき第1回を開催し、2004年の大学法人化元年を機に大学の主催となり、現在に至っています。

例年、各部局、研究所をはじめ、地域、学部・学科、海外などの東大校友会登録団体と協力、連携を図っていますが、

本年開催する「第18回 東京大学ホームカミングデー」はさらなる拡大を目指します。

当日は卒業生が親睦を深める場に加え、

社会に広く「東京大学の今」を知っていただく貴重な機会ととらえ、

「東大が社会とどうつきあっていくか」を題材に多くの方が

「参加」「存分に楽しめる」「共感できる」意義深いプログラムを増やすため、企画しています。

多数の皆さまのご来場をお待ちしています。

※ ホームカミングデーの web サイトは 6 月以降にオープンします。

年次同窓会を同時開催

今年は以下の3学年が集まります。



20周年学年会

【対象】

1995年入学/99年卒業/
99年院入学/01年医学部・農学
部獣医学専攻卒業



30周年学年会

【対象】

1985年入学/89年卒業/
89年院入学/91年医学部・農学
部獣医学専攻卒業



40周年学年会

【対象】

1975年入学/79年卒業/
79年院入学/81年医学部卒業



第17回 東京大学ホームカミングデー 2018年10月20日開催終了

多数ご来場いただき、ありがとうございました！



1 復活したお茶会。2 「珠玉の昆虫標本」は秘蔵コレクション4万点を公開。3 学芸員案内の総合図書館ツアー。4 足を使ってロボットアームを動かす。5 銀杏並木のにぎわい。6 親子で一緒に。7 現役音楽サークルも参加。8 応援部OB会も負けじ。9 懐徳館庭園一般公開。10 家族連れが目立った20周年。11 和やかに歓談する30周年。12 数年後の再会を誓う40周年。

同窓会だより

同窓会活動・設立レポート

01 東京大学バングラデシュ同窓会第一回総会開催

2018年9月15日に首都ダッカのアスコットホテルにおいて、第一回の総会を開催しました。2008年に発足した同窓会ですが、その後組織が充実し、初めて総会を開催できるようになりました。在バングラデシュ泉裕泰大使(81年法)、伊藤毅大使を始め、バングラデシュ人/日本人合わせて28名が参加、会長並びにコミッティーメンバー12名が選出されました。今後この組織力を活かして同窓会活動の更なる活発化が期待されます。[事務局記]



バングラデシュ人中心の新生東大バングラデシュ同窓会。

02 東京大学華人校友会第二回総会開催

在日華人卒業生のネットワークとして、母校との連携強化、華人留学生支援、華人卒業生・日本人卒業生との交流促進を目的として2011年に設立されました。2018年12月15日、装いも新たにオープンした山上会館において第二回総会が開催され、会長の劉傑氏(早稲田大学教授・93年人文博)、会長顧問の汪婉氏(中国大使夫人・96年総合文化博)、厳浩氏(EPSホールディングス会長・93年医博)の他若手卒業生の参加も多く、約40名が出席しました。東京大学からは松木則夫理事・副学長、藤井輝夫大学執行役・副学長が参加しました。[事務局記]



新会長に選出された汪婉氏。

03 五神総長、東京大学台湾校友会イベントに参加

2018年12月17日に、五神総長以下一行が、台湾教育省の招待で訪台した際、台湾校友会の招きで歓迎会が開催され約60名が参加しました。会長の廖慧明氏(台北福華大飯店董事長・65年数物修)から歓迎の挨拶に続き、五神総長は、「Future Society Initiativeより良い未来社会づくりに貢献する大学」と題し

て講演しました。講演後に総長は各テーブルを回り、校友会メンバーと和やかに歓談しました。大学と同窓会の交流を深める良い機会となりました。[事務局記]



五神総長の初訪台に熱気溢れる台湾校友会。

04 赤門技術士会設立

2018年12月1日に駒場II ENEOSホールにおいて、赤門技術士会設立総会が開かれ、約80名が参加しました。本会は、東京大学を卒業した技術士を主要メンバーとし、設立時の会員は130名を超えています。異なる技術分野の交流促進、母校との連携、技術士制度の普及促進などを活動方針として掲げています。光石衛東京大学執行役・副学長が会長に選出された他、藤井輝夫東京大学執行役・副学長が来賓として祝辞を述べました。総会後には、藤本隆宏東京大学教授・ものづくり経営研究センター長による設立記念特別講演会が行われました。[事務局記]



初代会長に選出された光石衛氏(東京大学執行役・副学長)

05 ホームカミングデイへの貢献2団体へ感謝状贈呈

長期にわたりホームカミングデイに貢献して頂いた2団体に五神総長から感謝状が贈呈されました。2011年より若手卒業生が親子で参加できる新しい形のプログラムを提供し



のびのび広場@2018年ホームカミングデイ。

東大蔵元会の人気プログラム「利き酒会」。



ている「のびのび広場実行委員会」と、2013年から银杏並木で利き酒会を実施している「東大蔵元会」です。[事務局記]

06 留学生誘致に貢献するスリランカ同窓会、ネパール赤門会

東京大学は文部科学省の日本留学海外拠点連携推進事業として南西アジアの優秀な学生を日本に誘致する活動をしています。この活動には海外同窓会のネットワークが重要です。ヒヤリングにあたり、2018年8月には東京大学スリランカ同窓会、同9月にはネパール同窓会に主要大学、高校の選定/訪問アレンジなどを協力いただきました。誘致の実施にあたっては、海外同窓会のさらなる協力が不可欠です。[事務局記]

同窓会だより原稿をお寄せ下さい

内容	活動報告、同窓会の総会告知 2019年9月中旬以降に開催するもの
写真	あれば1枚:jpg形式
期限	2019年7月22日(月)必着
投稿方法	文責者はフルネーム、卒業学部卒年を記載し、リッチテキストもしくはメモ形式で作成してください。eメールで投稿ください。
送付先	tft.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

※大変申し訳ありませんが、本学の情報セキュリティシステムのルールにより、wordの送受信ができません。お手数をおかけします。

新規登録団体のご紹介

山口東大

地域同窓会 会長 二井開成さん(66年法)

兵庫東大

地域同窓会 会長 西村文茂さん(72年法)

1979年入学/83年卒学年会

職域特定分野同窓会 会長 大久保達也さん(88年工博)

昭和49年入学同期の会

職域特定分野同窓会 会長 鷹尾行さん(79年経)

赤門技術士会

職域特定分野同窓会 会長 光石衛さん(86年工博)

登録団体数 304 (2018年2月15日現在)

学部等同窓会	45
地域別同窓会	54
海外同窓会	54
運動会	29
文化サークル	18
職域特定分野同窓会	43
クラス会(専門課程同期会)	12
クラス会(駒場)	49

▶ 東京大学の今

News Archive 2018

研究、文化、スポーツの成果をはじめ、東京大学での主なニュースを紹介します。

▶ スウェーデン国王・王妃両陛下が鎌倉リビングラボへ

4月25日(水)、国交150周年記念で来日中だったスウェーデン王国国王・カール16世グスタフ陛下と同王妃陛下、高円宮妃久子さまが鎌倉市今泉台を訪れ、高齢社会総合研究機構とスウェーデンとの共同研究である産官学民プロジェクト「鎌倉リビングラボ」の取り組みを視察されました。秋山弘子特任教授が同事業を紹介後、陛下は事故を回避する自律運転知能の搭載車に乗り、開発リーダーである神奈川工科大学の井上秀雄教授の説明に耳を傾けられました。続いて訪れた通所介護事業所「ワーキングデイわかば」では軽度認知症者の自立支援を目指すソーシャルロボット「PaPe Roi」をご覧になり、通所者との会話を楽しまれました。



スウェーデン国王陛下(左から2人目)と秋山弘子特任教授。

▶ シンポジウム

「東大生と考える主権者教育」

5月11日(金)に駒場キャンパスの21K0 MCEEWestレクチャーホールにおいて「東大生と考える主権者教育」シンポジウムが、教養学部及び教育学部の主催で行われました。石田淳教養学部長の開会挨拶に続き、シンポジウムでは、佐々木毅名誉教授(元総長・公益財団法人明い選挙推進協会会長)の「18歳選挙権の意義と課題」と題した基調講演のほか、氏岡真弓氏(朝日新聞編集委員)、原田謙介氏(NPO法人Youth Create代表)をお招きし、鹿毛利枝子教養学部准教授、村上祐介教育学部准教授も加わり、小玉重夫教育学部長の司会で「主権者教育とは何か」と題するパネルディスカッションが行われました。



基調講演をする佐々木毅名誉教授(元総長・公益財団法人明い選挙推進協会会長)。

▶ IRCNのオープニングセレモニー

5月28日(月)にニューロインテリジェンス国際研究機構(IRCN)オープニングセレモニーが開催され、総勢150名以上の参加がありました。IRCNは、生命科学、医学、言語学、数理学、情報科学を融合した新学問分野「Neurointelligence」を創成し、神経回路の発達の基本原理と、その障害が引き起こす精神疾患の病態解明を通じて、神経の動作原理に基づく革新的な人工知能(AI)の開発を目標としており、文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)(WPI: World Premier International Research Center Initiative)に採択されています。IRCNの本格始動を記念し開催されたもので、タカオ・ヘンシュ機構長の開会の挨拶で幕を開け、五神真総長、千原由幸文部科学省審議官、宇川彰日本学術振興会WPIプログラムディレクターと村山斉Kavli IPMU機構長による挨拶が行われました。その後、カリフォルニア工科大学ジェット推進研究所のスティーブ・チエン教授により「宇宙探査や地球外生物の研究におけるAIの重要性」についての特別講演がありました。今後はヘンシュ機構長のリーダーシップのもと、大きな科学的インパクトを有する新たな「ニューロインテリジェンス」研究分野を確立し、世界中の多くのトップレベルの研究者を惹き付け、真に国際的な研究拠点の構築を目指します。



除幕式の様子。

▶ くまモンを

「せんたん研究員」に任命

先端研と自治体連携協定を結んでいる熊本県の人気キャラクター「くまモン」が先端研の「せんたん研究員」に任命されました。連携の一環として、先端研の檜山敦講師(身体情報学分野)は2017年9月に熊本県の活躍の幅を広げようと設立された「くまモン共有空間拡大ラボ(くまラボ)」のフェロー(研究員)に任命され「くまモンとふれあえる人工現実(VR)世界の開発」に取り組んできました。くまモンが研究員として先端研での研究活動に参加することで、この研

究の具体的展開や加速化を図ることを目的としたものです。神崎亮平所長から辞令と研究員証を渡され、「これから研究者としても活躍してください。よろしくお祈りします。」と言葉をかけられたくまモンは、「東大先端研で研究員に任命していただいて、とってうれしかモン! これからもがんばっていくモン。」と意気込みを語っていました。



研究員となった挨拶として、くまモン体操を披露。

© 2018熊本県くまモン

▶ 特別展示

「珠玉の昆虫標本」内覧会

総合研究博物館本郷本館にて、特別展示「珠玉の昆虫標本—江戸から平成の昆虫研究を支えた東京大学秘蔵コレクション」の内覧会が、7月13日(金)に開催されました。今回は、本館に収蔵されている約70万点の昆虫標本のうち、日本の昆虫研究史の源流ともいえる学術標本から現在に至るまで継続的に収集、研究されてきた秘蔵コレクション約40,000点を一挙公開するもので、この中には約200年前の江戸時代に製作された日本最古の昆虫標本、近代養蚕学の父・佐々木忠次郎やミツクリザメで知られる箕作佳吉の明治～大正期の昆虫標本、昭和初期に採集された鳥類学者の侯爵・山階芳麿の昆虫標本、ブータン国王陛下から贈呈されたブータンシボリアゲハ、昆虫学史上に名を連ねる加藤正世、五十嵐邁、石川良輔のコレクションなどが含まれます。



展示室の四方壁面と中央に多数の昆虫標本が展示された壮観な光景に、関係者から驚嘆の声があがった。

▶ 哲学と科学が交流する

「宇宙×世界」を開催

6月10日(日)、カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)主催一般講演会「宇宙×世界」を日本科学未来館で開催しました。数学と物理学と天文学という基礎科学の領域から研究者が集まり原初的な問い「宇宙の謎に迫る」ことを目的に研究を進めるKavli IPMUが、根源を問うという点を同じくする哲学との交流を進める活動の一環として行うものです。かつて「2つの異なる文化」とも表現された科学と哲学ですが、その最先端にいる研究者が提示するピクチャーは互いに言及しうるものであり、現代が再び両者の対話を要請する時代となった

可能性を示唆するイベントとなりました。



両教授による対談「宇宙×世界」。

▶ ABUロボコン2018大会で見事3賞を受賞

8月26日(日)に開催された「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2018 ベトナム・ニンビン大会」に日本代表として出場していた東京大学RoboTech(顧問: 大学院情報理工学系研究科 國吉康夫教授)が以下の3賞を受賞しました。

-ABU ROBOCON AWARD

-2nd RUNNER UP

-Special Award (Toyota Award)

東京大学RoboTechは、全国より24チームが参加し、本年6月10日(日)に大田区総合体育館にて開催された「NHK学生ロボコン2018 ~ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2018代表選考会~」において優勝し、日本代表としてベトナム・ニンビン大会への出場権を獲得しました。渡航に先駆け、安倍総理大臣は、首相官邸で、メンバーと面会し、ベトナム・ニンビン大会での活躍を期待し、激励しました。



NHKエンタープライズ
(写真提供・協力)

▶ 2018年ノーベル賞平和賞受賞ムクウエゲ医師の講演@東大

東大にもゆかりがある本庶佑先生の生理学・医学賞受賞が話題を呼んだ今年のノーベル賞ですが、もうお一人、東大に縁がある方の受賞があったのはご存じでしょうか? ナディア・ムラドさんとともに平和賞を受賞した医師、デニ・ムクウエゲさんです。2016年10月、東大のリーディング大学院GSDM(社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム)の招聘を受けて来日し、「コンゴ東部における性暴力と紛争」を題材に講演したのが、

ムクウエゲさんでした(現時点では医師を招聘した日本唯一の機関が東大)。コンゴ東部ではIT時代に欠かせぬ tantalum などのレアメタル資源を狙って武装勢力が卑劣な性的テロを繰り返していること、負の連鎖を断つには不正に発掘された鉱物資源を世界の企業と消費者が受け入れない覚悟が必須であることなどを語った26分間は「東大TV」で確認を。



東大TV(大学総合教育研究センター)より。

▶ RAINBOW CROSSING TOKYO 2018

RAINBOW CROSSING TOKYO 2018が、10月21日(日)に大講堂(安田講堂)と御殿下記念館で実施されました。LGBTやダイバーシティに取り組む企業と共に、「自分らしくはたらく」について考える企画(主催/認定NPO法人ReBit、後援/厚生労働省、東京都、文京区、日本経済団体連合会、日本労働組合総連合会、全国中小企業団体中央会、東京大学)です。第1部の冒頭、本学の石井理事・副学長が後援挨拶を行いました。続いて各後援機関挨拶の後、国際労働機関(ILO)駐日事務所駐日代表田口昌子氏のスピーチ、Rebit代表理事薬師実芳氏の調査報告、当事者、支援に取り組む企業関係者によるパネルトークを行い、約500名が参加しました。第2部では、協賛企業21社の取り組みを知るブース、ポスターセッション、対話ブースのほか、スーツフィッシングやメイク相談なども実施されました。



のべ800名が参加した会場内の様子。

▶ VR教育研究センター 設立記念式典

11月1日(木)、伊藤国際学術研究センターにて、バーチャルリアリティ(VR)教育

研究センター設立記念式典を挙行了しました。式典では、石川正俊情報理工学系研究科長の挨拶の後、五神真総長、磯谷桂介文部科学省研究振興局長の祝辞、廣瀬通孝VR教育研究センター長による活動報告、川添雄彦日本電信電話株式会社取締役の基調講演、および、若手研究者による「バーチャルリアリティへの期待」、「バーチャルリアリティのこれから」と題するパネルディスカッションが行われ、400席弱の会場は、最後は立ち見が出る程盛会の内に式典が終了しました。式典終了後は、多目的スペースにおいて、隈研吾工学系研究科教授と河口洋一郎本学名誉教授の祝辞、および、VR研究のデモンストレーションや展示が行われると共に、研究者・出席者を交えた懇談会が開催され、和やかな雰囲気の中に終了しました。



デモンストレーション・展示・懇談会の様子。

▶ 陸上運動部の近藤選手が箱根駅伝に出走!

1月2日~3日に開催された第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に本学陸上運動部の近藤秀一選手(工・4年)が関東学生連合チームとして出走しました。関東学生連合チームとは、予選会の結果、出場権を得られなかった大学のうち優秀な個人成績をあげた選手が各校1名ずつ選出されるもので、近藤選手は全体47位の好成績を収め選出されました。近藤選手は過去3大会で関東学生連合チームの登録メンバー16人に入っていました。出場機会は得られていませんでした。彼にとっては今大会が初出場であり、本学としても実に14年ぶりの出場でした。近藤選手は往路第1区(大手町~鶴見、21.3km)に出走し、結果は区間記録1時間7分8秒で22番手でした。



1区を疾走する近藤選手。

掲載広告インデックス

大和ハウス	11P
学士会	11P
野村グループ	13P
本郷赤門前霊園	15P
東京大学エクステンション	17P
プライダル	表3
JR東日本	表4

編集発行/社会連携本部
藤井輝夫/社会連携本部長
アートディレクション/細山田光宣
デザイン/河村織恵
表紙イラスト/門坂流
印刷/勝美印刷
発行/2019年3月8日

東京大学校友会事務局

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
TEL: 03-5841-1227
Email: utaa.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
URL: https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/index.html

ご支援をお考えの方へ

東京大学基金よりお知らせ

東京大学では教育改革と質の高い安定した環境の整備により、新しい価値創造に挑戦する次の世代を育てる場を創造し、誰もが幸せに暮らせるインクルーシブな社会の実現に貢献します。今後も地球と人類社会の未来に貢献し続けるためには、財源の多様化が不可欠です。ご賛同いただける皆様からのご支援をお願いいたします。

東京大学へのご支援方法は、「webサイトからオンラインで申し込む」「同封の振込用紙を使用する」「クレジットカード決済で継続的に定額寄附する」などが選択できます。

なお、寄附の用途を指定される場合は、必ず支援プロジェクトを指定してください。

「一任する」をお選びになった場合、東京大学基金のコアとして積み立てられ、運用原資として活用させていただきます。



現在寄附を募っている
東京大学基金の
支援プロジェクトの一覧

「未来社会協創（FSI）基金」 のお知らせ

FSIとは、未来社会協創=Future Society Initiativeの頭文字です。未来社会協創事業が目指す方向性は、国連が2030年に向けて採択したSDGs（持続可能な開発目標）の理念と合致します。東京大学が文理を越えて有する「知」を集積し、SDGsを媒介に学内外の連携を深め、皆様と一緒により良いインクルーシブな未来社会を協創していきます。その目標を実現するため、東京大学基金内に「未来社会協創（FSI）基金」を設立しました。



山上会館リノベーション事業 (東京大学創設 140 周年記念) ご報告

本事業には462件、2,200万円を超えるご寄附をお寄せいただきました。多数の地域同窓会からもご寄附をいただきました。ご支援くださった皆様にあらためて御礼申し上げます。

東京大学同窓会連合会様 / 北海道銀杏会様 / 仙台赤門会様 / 栃木銀杏会様 / 埼玉銀杏会様 / 千葉銀杏会様 / 東京銀杏会様 / 東京大学鎌倉淡青会様 / 東海銀杏会様 / 京都東大会様 / 奈良東大会様 / 鳥根赤門会様 / 広島赤門クラブ様 / 山口東大会様 / 福岡銀杏会様 / 福岡銀杏会北九州の集い、佐賀赤門会様 / 熊本淡青会様 / 大分赤門会様 / 宮崎赤門会様

銘板は新設されたエレベーターの近く、御殿下グラウンド側に位置します。一括で3万円以上のご寄附をくださった方々のお名前を掲示させていただきますいております。



銘板は2階の御殿下グラウンド側、新設されたエレベーター横に設置

中央食堂リニューアル事業 (東京大学創設 140 周年記念) ご報告

1,556件で6,600万円を超える大きなご寄附をお寄せいただきました。昨年4月2日のグランドオープン以降、リニューアル前より約20%も利用者数が増えています。またメニューにはハラル料理やベジタリアン料理が増え、以前より日本人学生と歓談する留学生の姿が多く見受けられます。皆様のおかげで快適な空間を提供することができました。重ねて御礼申し上げます。

第1期、第2期ともに銘板の設置が完了。

